

平成 28 年度 MieMu の活動と運営の外部評価結果（概要）

外部評価結果

- ・ 企画展では、「大変動の地」や「忍者」で多くの来館者を獲得するとともに、知名度の高い「植木等」を開催することで、総観覧者数で前年度を上回り（115%）、展覧会毎の平均年齢でも 21 歳～52 歳と幅広い層を獲得できたことは、前年度よりも本数を減らしたことと合わせ、おおいに評価できる。
- ・ 基本展示では、開館三年目にもかかわらず観覧者数が前年度比 89%であったことは、リピーターの割合が増加（41%⇒52%）したことに支えられたと考えられ、「何度も利用してもらおう」という目標は達成できたと判断できる。今後、繰返し訪れても陳腐化を感じさせない、計画的な展示更新や解説機会、学校向けプログラムのさらなる充実を期待したい。
- ・ 広報活動に関しては、引続きマスコミ向けの情報提供や、展示風景を伝える動画を使った SNS での発信など、積極的に取り組んでいることが評価できる一方で、今後は、SNS などではより多くの職員が係わることで、専門性を活かした情報発信の強化や充実を期待したい。
- ・ 県民や利用者の参画については、引続き企業とは、コーポレーションデーの実施（6 回、最多入館者 4,692 人／日）とともに、活動資金の確保（72 百万円）でも、他の公立館にはないすぐれた実績を残している。企業パートナーのうち「5 年コース」が切替えを迎えること、ミュージアムパートナーの自立化、さらには「博物館会議」や「こども会議」の機能継承などの課題について、早急に検討・対策を進められたい。
- ・ 展示環境や資料の保全・保護については、一部で虫の発生が見られたことは残念であるが、資料に影響なく食い止めることができたことは、日頃の点検と専門職による適切な対応の賜物と言える。また、相談窓口を通じて、全県的な支援活動ができたことは、公立機関として評価できる。
- ・ 開館以来、成果の乏しかった地元と連携した総合研究について、今年度はまず、現地調査、移動展示、シンポジウムの開催と、目に見える大きな成果が上がったことを評価したい。今後は、単年度に偏ることなく、地道でも毎年、着実な成果を上げることを期待したい。

総括

平成 28 年度については、昨年度の「優れた点とともに改善すべき点も「継承」

した」、また、「企画展の本数過多や、地域での調査が引き続き低調である」との指摘に対し、確実な改善ができたことをまず、評価したい。その上で、なお、「戦術 3」の学校利用促進のための館内プログラムの充実が図られなかったこと、および、「戦術 14」の地域づくりへの貢献の一環とした小中学校向け調査カードの配布が実現できなかったことは、3カ年とも同じ結果であったことを含め、大きな反省材料である。ぜひ今後、しっかり原因究明を行い、必要に応じて計画や目標を見直すことを求めたい。

さて、開館3年目となった平成28年度は、現行の指標や目標値での評価の最終年度となる。そこで、今回は過去三年間を振り返る目的で、評価結果の変遷を表1にまとめた。

平成28年度の戦略と戦術の合計評定点は、それぞれ22/24と57/68となり、単純に百分比に換算すれば、平成28年度の戦略は92%、戦術は84%と非常に高い。さらに、経年変化に注目すれば、戦略の合計については、平成26年度から28年度にかけて15⇒16⇒22、戦術についても48⇒52⇒57と推移し、確実に上がって来たことが見て取れる。これは、年を追うごとに改善が進んだこと、特に平成28年度で顕著なことを示している。

しかし、3年続けて低い評価にとどまっている戦術があることは看過できず、改善にはまず、根本原因の徹底的な調査が必要である。また、今回、一気に評価点数が向上した戦略5およびそれを構成する戦術14～16については、調査研究の「成果の有無」を判断指標としたため、成果に至る途上では評価点数が得られない。そのため、今年度の結果だけを見て、単純に一喜一憂できないことにも留意しなければならない。

いずれにせよ、総点数が増加し、平成28年度の戦略6（評価制度を活用して事業を選択）の評定点が上がったことは、館における改善の努力が実ったことはもとより、この評価システムが一定の機能・役割を果たした結果と考えたい。

そうは言うものの当館には未だ、先に記した改善の進まない事項や、それ以外にも、開館の前提とした運営費目標が達成できていないことや、職員間での業務量の偏りが見られるなど、課題は残っている。

引続き、本評価制度が有効に機能し、適正な目標設定、原因究明から改善策の策定、PDCAサイクルの循環が実現することで、利用者サービスの向上が図られ、県民の期待に応える博物館となるため、現場と設置者が一体となって不断の努力をされることを期待する。

表1 評定点の推移 (平成 26～28 年度)

戦略	H26 年度	H27 年度	H28 年度	差	戦術	H26 年度	H27 年度	H28 年度	差
戦略 1	4	3	3	0	戦術 1	4	4	4	0
					戦術 2	2	3	3	0
					戦術 3	2	2	2	0
戦略 2	3	3	4	1	戦術 4	3	4	4	0
					戦術 5	1	1	(1)	0
					戦術 6	4	4	4	0
					戦術 7	4	4	4	0
					戦術 8	4	4	4	0
戦略 3	3	4	4	0	戦術 9	4	4	4	0
					戦術 10	4	4	4	0
					戦術 11	2	3	3	0
戦略 4	3	4	4	0	戦術 12	3	4	4	0
					戦術 13	4	4	4	0
戦略 5	1	1	4	3	戦術 14	1	1	1	0
					戦術 15	1	2	4	2
					戦術 16	1	1	4	3
戦略 6	1	1	3	2	戦術 17	4	3	3	0
					戦術 18	×	×	×	-
合計	15	16	22	6	合計	48	52	57	5
百分比	63%	67%	92%		満点比	71%	76%	84%	

「差」とした2列の値は、平成 27 年度と同 28 年度の比較。